

施策名	食品供給における安全・安心の確立ニーズがもたらすフードシステム及び貿易構造の変化の解明
所管部局・課	農林水産政策研究所
施策の概要	<p>(1)目的 (要求理由)</p> <p>近年、BSE、鳥インフルエンザの発生など、消費者の食に対する安全・安心を脅かす事態が相次いでいる。現在の食料供給が、フードシステムの中で生産・流通・加工・消費等を複雑に絡ませながら行われている中では、システムの一部で発生した事態やそれへの対策が消費者のみならず多くの関係者に連鎖的に影響を及ぼす。消費者に安全・安心な食料を安定的に供給するためには、フードシステムの全体にわたる対応が必要とされる。</p> <p>一方、食品安全問題発生に伴う貿易規制措置の発動は、世界の農産物及び食品の貿易構造に大きな影響を及ぼすとともに、各国のフードシステムに変化をもたらす。</p> <p>これらの事態に適切に対処するため、本研究を以下の内容で実施し、もって、1)安全・安心な食料供給のための政策的措置の、日本型の費用便益評価システムに基づいた効率的・効果的实施、2)国際交渉における、貿易規制措置の影響を巡る諸外国の主張に対する、計量モデルに基づいた的確な論駁、3)生産・流通・加工・外食・消費の各段階における安全・安心に関する意識の違いやリスク管理の格差を踏まえた、農業及び関連産業に対する経営支援政策の効率的・効果的な実施、等に資する。</p>
	<p>(2)内容</p> <p>欧米諸国における安全・安心な食料供給のための措置の費用便益評価の実態分析 食料の安全・安心の確保のための措置に関する日本型の費用便益評価システムの構築 安全確保のための輸入禁止等が世界の貿易構造及び国内のフードシステムに与える影響についての、PEM、AGLINK、GTAP等の各種計量モデルを使用した定量的分析 フードシステム構成主体の食の安全・安心に関する意識、リスク認知及びリスク管理の実態分析</p>
	<p>(3)事業実施主体</p> <p>農林水産政策研究所</p>
	<p>(4)事業実施期間</p> <p>平成17年度～19年度</p>

安全・安心な食料供給に係る問題点と対応

【 背景 】

食品の安全性に対する消費者の関心の高まり

食料供給における安心の確保に対する要求の高まり

食料、農産物の世界貿易の拡大

我が国の食料供給における輸入依存大

食品安全問題に起因して輸入禁止等が必要となるケースの増加
〔国内外でのBSE、鳥インフルエンザ発生〕

フードシステムの複雑性

外食・中食の発展

【 問題点 】

食料供給における安全・安心確保のためのコスト増大

輸入禁止が世界貿易、国内関連産業に及ぼす影響大

海外諸国との摩擦が発生する可能性

一旦問題がおこると多くの関係部門に波及

【 対応 】

海外諸国における安全・安心な食料供給のための措置の費用便益評価の実態分析

食料の安全・安心の確保のための措置の日本型の費用便益評価システムの解明

輸入禁止等が世界の貿易構造、国内フードシステムに及ぼす影響の分析

フードシステム構成主体（生産者、流通業者、製造業者、外食事業者、消費者）の食の安全・安心に関する意識、リスク認知及びリスク管理の実態分析

【期待される効果】

政府の措置の効率的・効果的实施

〔わが国の事情に適合した費用便益評価に基づく措置の実施〕

海外諸国との的確な交渉対応

〔輸入禁止から生ずる利益・損失に関する相手国の主張に対し、計量モデルに基づいて的確に反論〕

農業及び関連産業の経営支援政策の効率的・効果的实施

〔意識の高い主体間の連携の促進
リスク発現時の経営支援政策
平時のリスク管理が弱い部門の対応強化〕

国民の食の安全・安心の確保